

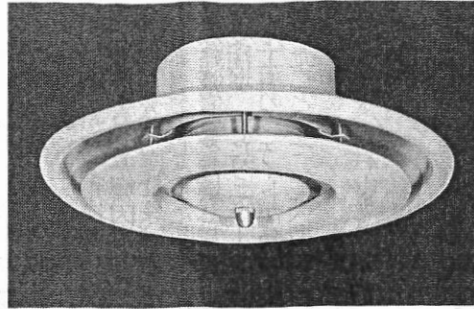
55年前のデیفューザー

JABMEEが建築設備技術遺産に認定

吹出・吸込兼用の新晃SRD型

一般社団法人建築設備技術者協会（略称JABMEE、会長野部達夫氏）は16日、平成29年度建築設備技術遺産を認定したと発表した。

「建築設備技術遺産」認定制度は、2012（平成24）年度に始まり、今年で6回目を迎える。空調領域・電気領域・衛生領域の3領域で各1件の物件を認定した。空調領域で認定されたのは、オフィスのモジュール化の初期における個別完結性・良好な空調環



境をつくるために開発された、吹出・吸込兼用の風量調整機構付きエアードیفューザ「新晃SRD型（昭和37）年竣工の住友ビル本館に全面採用された。当時としては斬新なインテリア3.81×3.81モジュールに約7千個設置され、現在も住友グループの代表的な建物に設置され続けている。製品名の「SRD」とはSupply-Return-Damperの頭文字。一つの空調制気口で吹出・吸込（周囲が吹出中央部が吸込）を行い、吹出・吸込ともに風量調整（コーンの上げ下げによる）ができる機構を内蔵。形状は丸型アネモスタットに近似している。このデیفューザの上に専用ボックスを設置し、サプライダクトとリターンダクトが接続される。当時のカタログに記載されている特長は、間仕切りへの自在性、室内気流分布の均一性、室内温度・湿度の均一性、風量調整の自在性。どれもオフィスのモジュール化、空調環境制御要素として重要な事項である。この

デیفューザ以後、オフィス用のモジュールに対応した風量制御（VAV等）、天井吹出空気拡散性等の技術が発展、普及し現在に至っている。当時の製品が新晃工業SINKOテクノカルセントリーシヨールームに展示されており、見学が可能。

このほか電気分野では住宅用分電盤の原型となった「ホーム分電函（BK-3）」（管理者・所有者河村電器産業、衛生領域では洗面・手洗い用自動水栓のニースを掘り起こし普及のきっかけとなった「TOTOMIユーシアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓」管理者・所有者TOTOMI（ミュージアム）が認定された。

55年前のオフィスのモジュール化初期の製品として、建築設備技術遺産として認定に値するものとされ、認定第28号となった。

このほか電気分野では住宅用分電盤の原型となった「ホーム分電函（BK-3）」（管理者・所有者河村電器産業、衛生領域では洗面・手洗い用自動水栓のニースを掘り起こし普及のきっかけとなった「TOTOMIユーシアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓」管理者・所有者TOTOMI（ミュージアム）が認定された。